

## 事前評価個表

事業名	海岸防災林造成（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	そとめやち 五月女苑 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 津軽森林管理署 金木支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、五所川原市北部に位置し、海からの強風により公共施設や県道・農地等の保全対象に被害が及ぶ恐れがある。 このため、海岸防災林を維持・造成するために水路工を施工し海岸林の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 水路工 500m</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	55,372	千円
	総 費 用（C）	11,538	千円
	分析結果（B／C）	4.80	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 当地区の海岸防災林造成を施工するために、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、当地区の海岸防災林の維持・造成が図られ周辺の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>みなみまたさわ</small> 南股沢 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 青森森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は外ヶ浜町西部に位置し、豪雨等により溪岸崩壊が発生し、溪床には多量の不安定土砂が堆積している。放置すれば今後の豪雨・融雪等により溪岸崩壊の拡大及び不安定土砂が下流域へ流出する恐れがある。</p> <p>このため、溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 布団カゴ工 1基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	45,543	千円
	総 費 用（C）	4,808	千円
	分析結果（B／C）	9.47	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出するおそれがあることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ゆざわ 湯沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 盛岡森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、盛岡市南西部に位置し、平成19年9月の豪雨により、山腹崩壊が発生し、都南つどいの森の遊歩道が使用不能となった。現在、崩壊土砂が斜面下部の不安定土砂として堆積し、今後の降雨・融雪等により崩壊の拡大、不安定土砂が流出するおそれがある。</p> <p>このため、崩壊地に治山ダム及び山腹工（土留工・緑化工等）の施工により崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、下流の宅地・道路の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 0.05ha</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	126,643	千円
	総 費 用（C）	29,722	千円
	分析結果（B/C）	4.26	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	たかまつさわ 高松沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 盛岡森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、雫石町南部に位置し、平成19年9月の豪雨により、山腹崩壊が発生し、大量の土砂を下流へ流下させた。崩壊斜面及び溪床には不安定土砂が堆積しており、放置すると今後の降雨・融雪等により下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、崩壊斜面及び溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、下流域の県道の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 4基 山腹工 0.5ha</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	289,551	千円
	総 費 用（C）	67,950	千円
	分析結果（B / C）	4.26	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	地すべり防止（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成25年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おほかさわ オボカ沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、北上市の西部に位置し、火山噴出物の堆積層からなる脆弱な地質構造であり、平成20年の融雪期に地すべりが発生し、放置すれば下流へ被害を及ぼす恐れがある。また、地すべりによる荒廃はオボカ沢に右岸に発生しており、溪流まで土砂が流出し下流への多量の土砂の生産がされている。</p> <p>このため、夏油大橋や県道への被害を防止し、地すべり斜面の安定化をはかるための対策工を実施する。</p> <p>主な事業内容 鋼管杭打工 60本 外</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	512,953	千円
	総 費 用（C）	458,246	千円
	分析結果（B/C）	1.12	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性：地すべりの発生により不安定土砂が堆積しており、放置すれば土砂が流出する恐れがあることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性：事業の実施により、不安定化した土砂の流出防止が図られ、下流域が保全されることから有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性：対策工の計画にあたっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成40年度（20年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>いわいがわじょうりゅう</small> 磐井川上流 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岩手県南部の栗駒山(1,627m)の東部に位置し、全域が栗駒国定公園に指定され、下流域には真湯温泉があり、夏季は自然探勝、登山を中心とした観光地であり、磐井川は巖美溪と称され多くの観光客が訪れている。林況は、広葉樹がほとんどを占めており、一部にスギ・ヒノキの人工林が点在している。地形は、全般的に急峻で、火山山麓斜面に位置し、台地状地形が降雨等により侵食された急峻な溪岸となっている。地質は、新第三紀～第四紀の溶結凝灰岩、軽石凝灰岩や凝灰角礫岩などで構成されている。当地区は、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震の震源地に近く、地震により大規模な岩盤崩壊等が発生し、荒廃面積は248haにおよび、崩壊土砂による河道閉塞が発生するなど、溪床に大量の不安定土砂が堆積している。また、当地区内の産女川流域は、大規模な山腹崩壊が多数発生している。このまま放置すれば、降雨等による出水により河床が上昇し、河道閉塞箇所を越流し溪床に堆積する大量の不安定土砂が流出するなど河川氾濫の原因となり、下流域の温泉や人家等の保全対象に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の不安定土砂が多い箇所や河道閉塞が発生するおそれがある箇所において、山腹崩壊地を山腹工によって土砂流出の抑制を図るとともに、溪床の不安定土砂や崩壊残存土砂が厚く堆積している箇所の下流において、谷止工に加え、不安定土塊の侵食・流動化を防止するための床固工を多段で配置するなどにより、山腹工（土留工、緑化工）及び溪間工（谷止工、床固工）を組み合わせ土砂流出の抑制と森林の復旧を目指した総合的な対策を実施することとした。</p> <p>・主な事業内容：溪間工 46基、山腹工 36.6ha(11箇所)</p> <p>・主な保全対象：人家 165戸、国道・県道 9,900m、市道 2,700m 林道 3,600m、農地 178ha、橋梁 9箇所</p>		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	7,063,280	千円
	総 費 用 (C)	3,480,679	千円
	分析結果 (B/C)	2.03	
評価結果	<p>・必要性： 山腹崩壊斜面や溪床に大量の不安定土砂が堆積し、放置すれば山腹崩壊地や荒廃溪流から下流への土砂流出が懸念され、下流域の保全対象に大きな被害を及ぼすおそれがあることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂及び山腹崩壊斜面の安定が図られ、植生が回復することにより、不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全が図られることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成40年度（20年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	いさわがわじょうりゅう 胆沢川上流 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岩手県南部の石淵ダムの上流に位置し、全域が栗駒国定公園に指定され、石淵ダムの下流には、平成25年度に多目的な胆沢ダムが完成予定である。林況は、広葉樹がほとんどを占めており、一部にスギ・ヒノキの人工林が点在している。当地区内の前川流域の山腹は、急峻な地形であり、また、尿前沢流域は、台地状地形が降雨等により侵食された急峻な溪岸となっている。地質は、新第三紀～第四紀の溶結凝灰岩、軽石凝灰岩や凝灰角礫岩などで構成されている。当地区は、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震の震源地に近く、地震により大規模な山腹崩壊等が発生し、荒廃面積は160haにおよび、溪床の不安定土砂量171万m<sup>3</sup>、崩壊残存土砂量589万m<sup>3</sup>があり、崩壊土砂による河道閉塞が発生し溪床には大量の土砂が堆積するなど大きな被害が発生した。このまま放置すれば、降雨等による出水により河床が上昇し、河道閉塞箇所を越流し溪床や山腹に残存する不安定土砂が流出し、下流の石淵ダムや新設の胆沢ダムに大量の土砂が流入し、ダム上流側の河床が上昇して河川氾濫の原因となり、下流域の人家等の保全対象に被害をあたえるおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の不安定土砂が多い箇所や河道閉塞が発生するおそれがある箇所において、山腹崩壊地を山腹工によって土砂流出の抑制を図るとともに、溪床の不安定土砂や崩壊残存土砂が厚く堆積している箇所の下流において、谷止工を配置するなどにより、山腹工（土留工、緑化工）及び溪間工（谷止工）を組み合わせることで土砂流出の抑制と森林の復旧を目指した総合的な対策を実施することとした。</p> <p>・主な事業内容：溪間工 9基、山腹工 19.7ha(5箇所)</p> <p>・主な保全対象：人家 1戸、市道 8,400m、林道 3,300m、橋梁 13箇所</p>		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	2,561,318	千円
	総 費 用 (C)	863,224	千円
	分析結果 (B/C)	2.97	
評価結果	<p>・必要性： 山腹崩壊斜面や溪床に大量の不安定土砂が堆積し、放置すれば山腹崩壊地や荒廃溪流から下流への土砂流出が懸念され、下流域の保全対象に大きな被害を及ぼすおそれがあることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法検討されており、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂及び山腹崩壊斜面の安定が図られ、植生が回復することにより、不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全が図られることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	地すべり防止（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～22年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ほのがわ 保野川 （宮城県）	事業実施主体	東北森林管理局 宮城北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は大崎市南部に位置し、計画箇所では中腹から湧水がみられ、上下流には治山ダムがあり、その中間辺りには保野川林道に架かる大滝橋がある。</p> <p>このため、事業を実施することで山腹地すべり及び土砂等の下流への流出を防止し、下方の集落の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 鋼製土留工 0.2ha 集水ボーリング</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	81,526	千円
	総 費 用（C）	67,678	千円
	分析結果（B／C）	1.20	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 湧水等の状況より放置すれば地すべりが発生するおそれがあること、溪流の土砂等の堆積状況より土砂が下流に流出するおそれがあることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、土砂等の流出防止が図られ、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成40年度（20年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	いちほさまがわじょうりゅう 一迫川上流 （宮城県）	事業実施主体	東北森林管理局 宮城北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、宮城県北部の栗駒山(1,627m)の南部に位置し、全域が栗駒国立公園に指定され、流域には温湯温泉、湯ノ倉温泉、湯浜温泉があり、夏季は自然探勝、登山を中心とした観光地域である。林況は、広葉樹がほとんどを占めており、一部にスギ・ヒノキの人工林が点在している。地形は、一般的に急峻で、火山山麓斜面に位置し、台地状地形が降雨等により侵食された急峻な溪岸となっている。地質は、新第三紀～第四紀の溶結凝灰岩、軽石凝灰岩や凝灰角礫岩などで構成されている。当地区は、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震の震源地に近く、地震により大規模な山腹崩壊等が発生し、荒廃面積は351haにおよび、溪床の不安定土砂量499万m<sup>3</sup>、崩壊残存土砂量968万m<sup>3</sup>など荒廃が著しく、特に山腹崩壊土砂による河道閉塞のため、湯ノ倉温泉等に甚大な被害が発生した。このまま放置すれば、降雨等による出水や溪岸侵食に伴う溪床や山腹に残存する不安定土砂が下流へ流出し、河床が上昇して河川氾濫の原因となり、下流域の温泉や人家等の保全対象に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の不安定土砂が多い箇所や河道閉塞が発生するおそれがある箇所において、山腹崩壊地を山腹工によって土砂流出の抑制を図るとともに、溪床の不安定土砂や崩壊残存土砂が厚く堆積している箇所の下流において、谷止工に加え不安定土塊の侵食・流動化を防止するための床固工を多段で配置するなど、山腹工及び溪間工（谷止工、床固工）を組み合わせて土砂流出の抑制と森林の復旧を目指した総合的な対策を実施することとした。</p> <p>・主な事業内容：溪間工 61基、山腹工 47ha(30箇所)</p> <p>・主な保全対象：人家 281戸、国道・県道 14,800m、市道 3,000m 農地 75ha、橋梁 6箇所</p>		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	13,433,774	千円
	総 費 用 (C)	5,998,748	千円
	分析結果 (B/C)	2.24	
評価結果	<p>・必要性： 山腹崩壊斜面や溪床に大量の不安定土砂が堆積し、放置すれば山腹崩壊地や荒廃溪流から下流への土砂流出が懸念され、下流域の保全対象に大きな被害を及ぼすおそれがあることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂及び山腹崩壊斜面の安定が図られ、植生が回復することにより、不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全が図られることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成40年度（20年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	にはさまがわじょうりゅう 二迫川上流 （宮城県）	事業実施主体	東北森林管理局 宮城北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、宮城県北部の荒砥沢ダムの周辺に位置し、全域が栗駒国立公園に指定されており、年平均気温は8.5度、冬期の10月から4月にかけて積雪がある。林況は、広葉樹がほとんどを占めており、一部にスギ・ヒノキの人工林が点在している。地形は、全般的に急峻で、火山山麓斜面に位置し、台地状地形が降雨等により侵食された急峻な溪岸となっている。地質は、新第三紀～第四紀の溶結凝灰岩、軽石凝灰岩や凝灰角礫岩などで構成されている。当地区は、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震の震源地に近く、地震により山腹崩壊や荒砥沢ダム上流に代表する大規模な地すべり等が発生し、荒廃面積は173haにおよび、特に荒砥沢地すべりは斜面長約1,300m、幅約900m、不安定土砂量は約6,700万m<sup>3</sup>であり、東京ドーム約54個分に相当する大量の土砂が堆積している。このまま放置すれば、降雨等に伴う出水で山腹に残存する不安定土砂が下流へ流出し、河床が上昇して河川氾濫の原因となるおそれがある。また、地すべりの再滑働により、大量の土砂が流出し、荒砥沢ダムが埋没して河川氾濫の原因となり、下流域の人家等の保全対象に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の不安定土砂が多い箇所や河道閉塞が発生するおそれがある箇所において、山腹崩壊地を山腹工によって土砂流出の抑制を図るとともに、溪床の不安定土砂や崩壊残存土砂が厚く堆積している箇所の下流において、谷止工に加え不安定土砂の侵食・流動化を防止するための床固工を多段で配置するほか、地すべり機構調査を踏まえて、地すべり対策工を実施するなどにより、山腹工（土留工、緑化工）、溪間工（谷止工、床固工）及び地すべり対策工を効率的に組み合わせ、土砂流出の抑制と森林の復旧を目指した総合的な対策を実施することとした。</p> <p>・主な事業内容：溪間工 16基、山腹工 122.7ha(6箇所)、土工 135万m<sup>3</sup> 排水工 286,000m、杭打工 75本</p> <p>・主な保全対象：人家 251戸、国道・県道 11,000m、市道 22,000m 林道 4,400m、農地 190ha、橋梁15箇所</p>		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	14,309,483	千円
	総 費 用 (C)	7,335,233	千円
	分析結果 (B / C)	1.95	
評価結果	<p>・必要性： 山腹崩壊斜面や溪床及び大規模地すべり地内に大量の不安定土砂が堆積し、放置すれば山腹崩壊地、荒廃溪流及び地すべり地から下流への土砂流出が懸念され、下流域の保全対象に大きな被害を及ぼすおそれがあることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂、山腹崩壊斜面及び地すべりの安定が図られ、植生が回復することにより、不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全が図られることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成40年度（20年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	さんほさまがわじょうりゅう 三迫川上流 （宮城県）	事業実施主体	東北森林管理局 宮城北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、宮城県北部の栗駒山(1,627m)の南東部に位置し、全域が栗駒国定公園に指定され、上流域には駒ノ湯温泉があり、自然探勝を中心とした観光地であり、山頂付近は、森林生態系保護地域にも指定されている。林況は、広葉樹がほとんどを占めており、一部にスギ・ヒノキの人工林が点在している。地形は、一般的に急峻で、火山山麓斜面に位置し、台地状地形が降雨等により侵食された急峻な溪岸となっている。地質は、新第三紀～第四紀の溶結凝灰岩、軽石凝灰岩や凝灰角礫岩などで構成されている。当地区は、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震の震源地に近く、地震により大規模な山腹崩壊等が発生し、荒廃面積は109haにおよび、溪床の不安定土砂量100万m<sup>3</sup>、崩壊残存土砂量69万m<sup>3</sup>など荒廃が著しく、特に栗駒山山頂付近からの土石流により、駒の湯温泉が被災するなど甚大な被害があった。このまま放置すれば、降雨等に伴う出水で溪床や山腹に残存する不安定土砂が下流へ流出し、栗駒ダムが埋没して河川氾濫の原因となり、下流域の温泉や人家等の保全対象に被害をあたえるおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の不安定土砂が多い箇所や河道閉塞が発生するおそれがある箇所において、山腹崩壊地を山腹工によって土砂流出の抑制を図るとともに、溪床の不安定土砂や崩壊残存土砂が厚く堆積している箇所の下流において、谷止工に加え不安定土塊の侵食・流動化を防止するための床固工を多段で配置するなどにより、山腹工（土留工、緑化工）及び溪間工（谷止工、床固工）を組み合わせ土砂流出の抑制と森林の復旧を目指した総合的な対策を実施することとした。</p> <p>・主な事業内容：溪間工 13基、山腹工 18.2ha(14箇所)</p> <p>・主な保全対象：人家 4戸、国道・県道 6,200m、市道 3,250m 林道 500m、橋梁 3箇所</p>		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	5,529,322	千円
	総 費 用 (C)	1,593,758	千円
	分析結果 (B/C)	3.47	
評価結果	<p>・必要性： 山腹崩壊斜面や溪床に大量の不安定土砂が堆積し、放置すれば山腹崩壊地や荒廃溪流から下流への土砂流出が懸念され、下流域の保全対象に大きな被害を及ぼすおそれがあることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂及び山腹崩壊斜面の安定が図られ、植生が回復することにより、不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全が図られることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	つきよさわ 月夜沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は北秋田市東部に位置し、融雪等により溪岸崩壊が発生し大量の土砂が下流に流下し、林道に被害を及ぼしたものである。現在も溪床内には不安定土砂が堆積しており、このまま放置すれば下流域の保全対象である林道等に多大な被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	46,202	千円
	総 費 用（C）	26,923	千円
	分析結果（B／C）	1.72	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果も認められることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	すみかわ 澄川 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は鹿角市南部に位置し、平成9年に大規模な地すべりが発生し、各種対策工を施工してきたが、近年の豪雨・融雪等により施設に被害が生じてきている。このまま放置すれば被害の拡大が予想される。下流には保全対象である国道・発電施設等があることから、放置すれば保全対象に被害が及ぶ恐れがある。</p> <p>このため、崩壊地の早期緑化により崩壊の拡大及び土砂流出の防止を図り、下方の国道、発電施設の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.06ha</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	56,169	千円
	総費用（C）	6,731	千円
	分析結果（B/C）	8.35	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大して土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保全機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果も認められることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成23年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	さくさわのさわ 作沢ノ沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は鹿角市南部に位置し、平成19年9月の豪雨の際に、溪岸崩壊が発生し大量の土砂が下流に流下し、林道に被害を及ぼしたものである。現在も溪床内には不安定土砂が堆積しており、このまま放置すれば下流域の保全対象に多大な被害を及ぼす恐れがある。また、県施工の治山ダム工は既に満砂状態にあり、早急に対策を講ずる必要がある。</p> <p>このため、崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 6基 資材運搬路 1,500m</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	484,368	千円
	総 費 用（C）	222,710	千円
	分析結果（B/C）	2.17	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果も認められることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>にこりかわまわ</small> 濁川沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署上小阿仁支署
事業の概要・目的	<p>当地区は北秋田市西部に位置し、上流にある既設谷止工は満砂状態であり放置すれば、豪雨等により不安定土砂が流出し保全対象に被害が及ぶ恐れがある。</p> <p>このため、土砂流出の防止を図り、下方の羽立集落の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	133,728	千円
	総 費 用（C）	13,462	千円
	分析結果（B／C）	9.93	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	はたのさわ 畑ノ沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署上小阿仁支署
事業の概要・目的	<p>当地区は北秋田市西部に位置し、豪雨等により山腹面に崩壊が生じ、その後の豪雨・融雪等により拡大傾向にあり、荒廃地は裸地状態にある。 このため、崩壊地の早期緑化により崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、下方の羽立集落の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 0.10ha</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	130,222	千円
	総 費 用（C）	30,769	千円
	分析結果（B／C）	4.23	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		





## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	あしくらさわ 芦倉沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は大仙市北部に位置し、豪雨・融雪等により溪岸崩壊が発生し、崩壊地は拡大傾向にあり溪床には、不安定土砂が堆積しており下流域への被害を及ぼすおそれがある。</p> <p>このため、溪岸に堆積している不安定土砂の流出の防止し、下流域の保全と保安林機能の増進を図るため事業を実施する</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	122,614	千円
	総 費 用（C）	14,423	千円
	分析結果（B／C）	8.50	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	水源の里保全緊急整備（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成23年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おおさくさわ 大作沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は秋田市東部に位置し、集落の水源林として重要な地域である。また、当溪流内において溪岸崩壊等が発生し、溪床内には不安定土砂が堆積しており、下流域に位置している保全対象等に被害が及ぶ恐れがある。このため、溪岸崩壊の拡大防止及び不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全と水源涵養機能の推進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 4基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	159,719	千円
	総 費 用（C）	55,680	千円
	分析結果（B／C）	2.87	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～23年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	めいしょうぬまさわ 名勝沼沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 由利森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は由利本荘市南東部に位置し、豪雨及び融雪水等による溪流荒廃が進んでおり、出水時に下流の民家、農地及び直下の林道等に被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、溪間工を施工し荒廃地を復旧すると共に保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	94,578	千円
	総 費 用（C）	46,327	千円
	分析結果（B／C）	2.04	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 施工地上流の山腹崩壊地及び河床の荒廃状況から、放置すれば山崩壊地の拡大及び河床の不安定土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の山脚固定及び河床の不安定土砂の固定が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	たてのさわ タテノ沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 庄内森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は鶴岡市南部に位置し、崩壊土砂流出の山地災害危険地区に指定されており、溪床内には狭隘な山腹から崩壊する土砂が堆積・流出している。下流域には県で施工したと思われるダムが既に満砂状態にあり、そのダムからは不安定土砂が越流し、保全対象への影響も懸念している。</p> <p>このため、上流域でもある国有林内に谷止工を設置し、不安定土砂の補足・抑制を図り、地域経済へ寄与するため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	125,233	千円
	総 費 用（C）	13,462	千円
	分析結果（B / C）	9.30	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 下流域にある既設の県施工ダムが満砂状態であることに加え上流からは不安定土砂が絶えず流搬されていることから、当事業の実施が必要であると認められる。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂流出防止と溪岸侵食防止を図ることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	こあらさわ 小荒沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 庄内森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は鶴岡市南部に位置し、平成17年9月の豪雨により200m<sup>3</sup>程度の不安定土砂が林道に流出し、走行を不能とした。その後流出土砂の除去により走行可能となったが、大雨の都度溪岸侵食が進展している。 このため、これらの土砂流出の未然防止のための事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	227,431	千円
	総 費 用（C）	27,885	千円
	分析結果（B／C）	8.16	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 小荒沢上流の閉塞状況から、放置すれば溪岸侵食が進行し土砂が流出する懸念があることから当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂流出防止と溪岸侵食防止を図ることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成24年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<sup>ふたぐち</sup> 二口 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は山形市北東部に位置し、平成19年9月7日台風19号の影響により日雨量314mmを記録した。それにより堆積していた土石が天然ダムになり土石流が発生下流2kmに流れ県林道が被災した。当該林道は宮城県への峰越し林道であり設置には両県と森林管理局長との協定にて設置されたものである。林道は県にて災害復旧をするためそれ以外の国有林の被害地にて更なる被害が懸念された。</p> <p>このため、崩壊地の早期緑化により崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、下方の仁別地区の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基 土留工 4基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	451,983	千円
	総 費 用（C）	103,237	千円
	分析結果（B／C）	4.38	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 災害地の状況から、放置すれば崩壊土石の流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪床の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成23年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ねづみさわ ネヅミ沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は西村山郡西川町の南西部に位置し、平成19年に融雪を起因と思われる、中規模な地すべり活動が発生し、土砂によりネヅミ沢が閉塞されるなど、当地区のみならず下流へ甚大な被害を与えることが懸念された。このため、崩壊地の早期緑化により崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、下方の仁別地区の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基 山腹工 0.7ha</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	960,433	千円
	総 費 用（C）	112,454	千円
	分析結果（B／C）	8.54	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成24年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	つちうちかわ 土内川 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>当地区は新庄市北東部に位置し、新庄市や周辺町村の治水・利水・農業用水等に大きな影響を与える地理的環境にあり、水土保持上重要である。地質は新第三紀花崗岩類で形成されている。この地区は、度々、豪雨等により溪床に堆積して不安定土砂が流出し林道や下流域に悪影響を与えている。</p> <p>このため、溪床・溪岸の拡大崩壊及び不安定土砂の抑止を図るため溪間工を配置して溪床を安定させ、下流保全対象の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 4基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	66,046	千円
	総 費 用（C）	54,904	千円
	分析結果（B／C）	1.20	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 溪床の荒廃状況から、放置すれば溪岸等の崩壊が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪岸浸食等の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度～平成22年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おおまたさわ 大又沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>当地区は戸沢村西部に位置し、溪床の地質は硬質泥岩等で形成されている。この地区は、平成20年8月の豪雨により溪床に堆積した不安定土砂が下流の農地及び橋梁等に被害を与えた。</p> <p>このため、溪床・溪岸の拡大崩壊及び不安定土砂の抑止を図るため溪間工を配置して溪床を安定させ、下流保全対象の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	160,655	千円
	総 費 用（C）	30,695	千円
	分析結果（B／C）	5.23	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 溪床の荒廃状況から、放置すれば溪岸等の崩壊が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、溪岸浸食等の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業実施計画期間	平成21年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	あかくらさわ 赤倉沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、真室川町北東部に位置し、地質は新第三紀中新世及位層・安山岩質火山礫凝灰岩に覆われている地域である。この地区は昭和50年の集中豪雨で死者5名が出るなど家屋の全半壊及び農地埋設・流出するという多大な被害を受け、激甚災害指定も受けている地域である。その後の豪雨等でも度々被害を受けている。</p> <p>このため、溪床の安定及び崩壊地の三脚を固定して既設谷止工上流部の安定を図り、土石流による溪床・溪岸の荒廃を防止し、下流への流出土砂を抑止し、下流保全対象の安全、保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	108,299	千円
	総費用（C）	12,019	千円
	分析結果（B／C）	9.01	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の荒廃状況から、放置すれば溪岸等の崩壊が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪岸浸食等の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		